

# 葦中だより

5月



令和3年5月26日発行

## ～今求められる「学力」～

伊豆の国市立葦山中学校長 宮崎 克久

「学力」というと、知識・技能の習得だけを中心とした学力観を考える方も多いと思います。しかし、この4月から全面実施している新しい学習指導要領（文部科学省が定めている教育課程・カリキュラムの基準）では、「何ができるようになるか」について、学力の三要素を踏まえて「資質・能力の三つの柱」として示しています。それらは、

- (1) 生きて働く知識・技能の習得「何を理解しているか、何ができるか」
- (2) 思考力・判断力・表現力等「理解していること・できることをどう使うか」
- (3) 学びに向かう力・人間性等「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」

となっています。育成すべき資質・能力は、今後さらに激動する社会を、生徒が生き抜くために必要となる学力です。

本校においても、授業をするすべての教員はこれを踏まえて日々の授業に努めています。また、通知表の観点も「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3つになります。（昨年度までは4つ。国語は5つ）



ここからは、語彙の学習（例）について紹介します。

語彙を豊かにするとは、語彙の量と質の両方から充実することです。これは、生徒がたくさんの語句を知っているだけでなく、語句の意味や使い方に対する認識を深めることです。

例えば、「扉」と「戸」は、「扉を開ける」「戸を開ける」の置き換えは許容されるが、「明日への扉」「明日への戸」の置き換えが同じ程度に許容されるかといえばそうではありません。このように類義語の具体的な用例を挙げながら考えることで、語句の意味に対する認識を深めることができます。

このように、生徒は、語句をただ単に知識として覚えるのではなく、実際に使ったり考えたりすることが重要です。言い換えれば、語彙の学習で求められることは、具体的な場面の中で使ったり考えたりすることができる能力を育むことです。

そこで、皆様をお願いしたいことは、学校・家庭・地域の相互で、上記のような学力を育成することを認識し、同じ方向を向くことです。生徒が、知識を記憶するだけの学習や、提示された課題をこなすだけの学習では、今求められる学力を育むことができません。社会総がかりで生徒を育成していくという本校方針へのご理解・ご協力のほど、よろしく願いいたします。





## タブレットを活用して授業が変わる

4月から教室に1人1台のタブレットが配備されました。授業で活用している一例を挙げます。

\*社会では、「〇〇県の産業について調べよう」という教師の課題提示に対して、各々が情報収集のために検索し、ノートにまとめます。

\*英語では、“You must not give chocolates to cats.”

と must を習った生徒がタブレットに向かって発音(発声)し、本時に学習した内容について自作の文を報告します。教員は後で一人ひとりの学びを確認します。

\*技術では、「今日の授業の振り返り用紙を配布します。」とタブレット上で振り返りシートを配付します。生徒たちはペンやキーボードで入力して先生に提出します。

\*1年生の城池学習では、福祉体験学習のまとめを、プレゼン形式でまとめています。

私たち教員は今この端末の活用方法について研修しています。今後活用の幅を広げていくと、授業の様子は少しずつ変わっていきます。しかし活用することが目的ではなく、生徒が今求められる学力、生きてはたらく力を身に付けていくためのツールとして活用できるようにしていきたいと考えています。



## 部活動始動

5月6日(木)、1年が本入部届を出し、3学年揃っての部活動がスタートしました。上級生は、下級生が入部した喜びを体いっぱい、はつらつと表現し、張り切っています。チーム全体で一つ一つの動作を確かめながら、技術の向上を図っているチームとしての姿は、いいものです。

4月から春の公式戦が開催され、菫中生の活躍が見られますので、紹介します。



- 野球部 若獅子旗争奪野球大会「準優勝」
- ソフト部 伊豆ソフトボール協会会長旗争奪ソフトボール大会「準優勝」
- 男子バレー部 春季静岡県東部バレーボール選手権「第5位」
- 男子バスケ部 静岡県協会会長杯バスケット大会東部地区大会「第3位」
- 女子バスケ部 静岡県協会会長杯バスケット大会東部地区大会「第3位」
- サッカー部 静岡県中学生サッカー選手権伊豆地区予選「優勝」

最後の大会(中体連やコンクール等)に向けて、これからさらに熱が入ります。無事に開催されることを切に願いつつ、子供たちの頑張りに対して皆様が声援をくださることに感謝します。

## 1年生 福祉体験学習を行いました

5月12日(水)、伊豆の国市社会福祉協議会をはじめ、民生委員、日赤奉仕団、災害VC、ひなげしの会(手話の会)など、30名を超える皆様のご協力のもと、1年生が福祉体験学習を行いました。中学生になって間もない1年生にとって、人とのよりよい関わりや生き方について考える契機となりました。

「みんなが平等」な社会、「みんなの暮らしやすい」社会が実現すると思います。

高齢の方の生活は、私たちが思うより、とてもたいへんな生活であることを忘れずに生活します。



(高齢者体験のようす)